

都市再生整備計画 事後評価書

令和4年12月23日

計画の名称	環状第二号線周辺地区		
計画の期間	平成30年度 ～ 令和4年度 (5年間)	交付対象	
計画の目標			
大目標 地域の魅力・価値の持続的な向上 小目標 道路と沿道が一体となった地域のにぎわい創出による、将来にわたり持続的に発展していくまちの実現			
計画の成果目標 (定量的指標)			
道路占用許可の特例制度により、新虎通り歩道上来街者が滞留できるオープンカフェや店舗 (建築物) を継続的に展開し、地域のにぎわい創出を図る。			
定量的指標の定義			定量的指標の現況値及び目標値
		当初現況値	中間目標値
		H29	—
			最終目標値
			R4
① 道路内に設置したオープンカフェ及び店舗 (建築物) を利用する年間利用者数	51,000人		110,000人
事後評価			
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期		令和4年12月
港区において評価を実施	公表の方法		港区ホームページ
事業効果の発現状況、目標値の達成状況			
I 定量的指標に関連する事業の効果の発現状況	・オープンカフェの設置や道路空間内でのイベント等により、にぎわいのある歩行者空間の創出を図るとともに、道路空間の日常的な美化活動 (除草、ゴミ拾い) や違法駐輪対策、景観ガイドラインの運用等により、統一感と品格のある景観の維持に取り組んだ。		
II 定量的指標の達成状況	指標①	最終目標値	110,000人
		最終実績値	40,730人
		目標値と実績値に差が出た要因	・新型コロナウイルス感染拡大により飲食店の利用者が著しく減少したため ・当初の目標値が、沿道の開発事業に伴うオープンカフェ席数及び利用者数の増加を想定していたが、ほとんど増加がなかったため
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)			
特記事項 (今後の方針等)			
・継続的に活動を行うため、都市再生整備計画の更新を行う。			

都市再生整備計画 事後評価書

計画の名称	環状第二号線周辺地区		
計画の期間	平成30年度	～	令和4年度 (5年間)
		交付対象	

凡例

都市再生整備計画の区域

道路占用許可の特例を活用し
歩きたくなる歩行者空間の創
出を図る予定の区域

